

## 令和3年度 第1回学校運営協議会議事録

日 程 令和3年5月31日（月）

実施方法 「学校運営協議会実施要項」及び「新型コロナウイルス感染症に係る令和3年度第1回学校運営協議会の実施について（教高第1223号）」に則り、書面にて意見の聴取を行った。

参加者 大阪教育大学教育学部総合教育系特別支援教育部門 教授 井坂 行男  
南大江東連合振興町会 会長 伊藤 弘一郎  
大阪ろう難聴就労支援センター 理事長 前田 浩  
大阪市教育委員会特別支援教育専門家チーム アドバイザー 森田 雅子  
大阪府臨床心理士会 副会長 良原 恵子  
本校PTA会長 廣田 めぐみ

議 題 ・令和3年度学校経営計画及び学校評価について  
・各部からの取り組みの報告

委員からの意見やアドバイス

### 学校経営計画及び学校評価について

#### 1 めざす学校像

- ・めざす生徒像の「豊かなコミュニケーション」についてはコミュニケーションの能力だけでなく、感性豊かで多様な表現スキルをもつ子どもを、保護者と共に育てるという目的意識を教員全体が共通理解してほしい。
- ・「自ら学ぶ力」は、どの学部においても研究授業や授業公開を重ねることで教員の専門性向上が必要であり、特に中学部・高等部では教科学習の成果が問われる。
- ・「夢に向かってチャレンジ」の「夢」は個々の子どもによって自己実現されていく。教員はその支援者であり続けてほしい。

#### 2 中期的目標 特にご意見なし

#### 3 本年度の取組内容及び自己評価

- ・本年度の「評価指標」の数値目標は適切であると思われる。
- ・2(1) 「一貫性のある教育」に関する取り組み内容の設定が必要。
- ・2(2) 聴覚障害について先人や事例を学べる図書、手話コンテンツの充実を図ってほしい。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・3(1) 「新学習指導要領に対応した教育課程の見直し、観点別評価への移行」について、準ずる教育課程と社会的自立をめざした教育課程ではそれぞれのように取り組んでいくのか。また、個別の教育支援計画・個別の指導計画についての取り組み状況も知りたい。</li> </ul>
各部報告について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の取り組みが適切にまとめられていると思う。</li> <li>・「めざす学校像」「中期的目標」と各部の「今年度の主な取り組み」がどのように関連しているのかを知ることができた。</li> <li>・どの部も今年度の主な取り組みが具体的にイメージしにくい。書面での限界もあるが具体性を意識して伝えてほしい。</li> <li>・昨年度の目標とその結果を踏まえた自己評価についても各部の考えを示してほしい。</li> <li>・SDGs 等に関しては、中学部のみでなく各学部や寄宿舎でも取り組んでほしい。</li> <li>・幼稚部について・・・保護者支援の具体的内容が明確にされていることは評価できる。関連機関との連携、共同研修の推進により教員の専門性向上の推進を提唱する。</li> <li>・小学部について・・・キャリア教育の実践に期待する。見通しをもった系統的なプログラムと学部を超えた共通理解が課題であろう。</li> <li>・中学部について・・・多様性の理解、コミュニケーション能力の開発に向けた目標設定は評価できる。基礎学力・深い学びを進めていくための教員の授業スキルを伸ばす具体的な取り組みが必須。</li> <li>・高等部について・・・社会に巣立つ前の「職業準備性」をどのように補強していくのか、具体的な内容・計画を記述されたい。</li> <li>・寄宿舎について・・・「知る・みる・つくる・あそぶ」という観点を明確化していることで、寄宿舎の目指す方向性がわかりやすくなっている。聴覚支援学校として大阪府下唯一の寄宿舎が機能し続けていくことを大切にしてほしい。</li> </ul>
その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染防止対策についての十分な取り組みを推進すると共に、めざす学校像を実現するべく教育実践の充実を願う。</li> <li>・コロナ禍においてはオンラインを利用した学習機会を増やすことも必要と思われる。</li> <li>・幼稚部から高等部まですべての学部の子どもたちが触れ合う機会を保障してほしい。</li> </ul>

## 5 学校長より

学校運営協議会の書面開催にあたり、委員の方々から多くの提言やご助言をいただいた。文書による説明が不足しており、具体性を欠いているとのご指摘もいただいた。現在の取

組みを少し説明させていただきたい。

4月より、校外での活動は中止となり、保護者が来校しての活動もできない中でさまざまな行事等の日程変更を行い対応した。学校間交流はZoomを活用して行い、またコロナに対する不安等で登校できない児童生徒に対して、授業をオンラインでつなぐなどの学習支援を行った。校内で、生徒が機器を活用できるようにする取り組みも実施した（中、高等部）。6月21日より、授業参観や学校説明会を行うことができ、校外での学習も、感染対策をすることで可能となり、学校の日常の機能を取り戻しつつある。

教職員が障がい理解を深めるために、東北福祉大の大西教授「聴覚支援学校におけるICT機器の有効活用」及び「ろう学校における主体的・対話的で深い学びの実践」、SilentVoice代表尾中様「聴覚障がいのある子どもたちと保護者のねがい」、120周年記念校内研究会 松本晶行氏 前田浩氏 山脇圭二氏「120周年を振り返って。そして未来へ（仮）」などの研修を企画している。また人権研修では「いじめ防止」「情報セキュリティ」「同和問題」をテーマに順次進めていく。今年度は部内研も盛んになり、児童生徒が今抱えている課題などもテーマにして深めていく予定。研究授業や互見授業を行い、フィードバックや研究協議をもとに、積極的に意見を交わし進めていきたいと考えている。校内のキャリア教育プログラムは、毎年見直しを行っている。現在のプログラムに加えて、幼稚部から高等部までの発達段階に合わせた目標が見通せるようなキャリア教育マトリクスになるよう、各学部で検討を進めている段階。教職員で共有するとともに保護者や外部の方々にも見える形にしたい。子どもたちに向けては、聴覚障がいのあるさまざまな職種の方による、生徒向け講演会を企画し、生徒自らが自分の将来像を描きやすくなるように進めている。

学部間連携では、全校運動会が2年連続で中止になっているのは残念である。学部を超えた演技などがなくなっている状況であり、練習も含めて関わる機会は減っている。また、全校の子どもたちが一堂に会する場も減っているのが現状。（感染対策として2会場をZoomでつなぐ方法を取っている。）今後の活動中での連携を探っている状態である。教職員の教科間連携や高等部教員による中学部教員への進路に関する研修、学部を越えた授業見学も進めていきたい。